令和三年度　ひこね子ども文化芸術奨励事業

夏休み文芸テキスト【詩部門】

お家で学ぼう！
自分の力で作ってみよう！

『くらし・こころ・ゆめを
自分のことばで
詩につづろう』

主催＝彦根市・彦根市教育委員会
協力＝彦根文芸協会

1 詩は、みなさんのくらしの中に いっぱいあります。

① 小さい時から、詩を聞いたり、読んだり、書いたりしてきました。

〔例えば…〕・絵本のことば　・歌のことば（歌詞といいます。）
・学校の教科書（どの学年にものせられています。）
・大人の歌う歌　・コマーシャルなどのことば
（いろいろなところに使われています。）

② 詩には、字数や長さなどの決まりはありません。

○ 書きたいことを自分の言葉で、自由にのびのびと表せます。

○ 長さは自由ですが、伝えたいことをなるべく短い言葉で表します。
（短い言葉の方が、読む人に強く伝わります。）
・書かなくてもわかる同じ言葉は、何度も使いません。
・けれども、時には同じ言葉をくり返し、伝えたいことを強く表したり、
リズムよく表すこともあります。

○ 行分けをします。
・作文のように、長い文にしません。（作者の考えによっては、行分けしない
こともありますが、その場合も無駄なことばは使いません。）
・句点「。」や読点「、」のところで、行をかえるといいです。

○ 「題」をつけます。

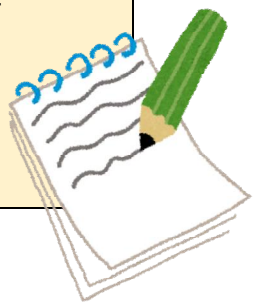
2 読む人の心に「よい詩だなあ」と伝わる詩を書くために。

① 詩の材料を見つけましょう。

《どんなことを詩に書くか》

○ **自分の心に強く残ったことを見つけよう。**（例）

・びっくりしたこと　・うれしかったこと　・がんばったこと
・みつけたこと　・すごいと思ったこと　・楽しかったこと
・やさしいなあと思ったこと　・かわいそうと思ったこと　・すごいなあと思ったこと



《どこにあるか》

○ それは、**毎日のくらしの中**にあります。

・飼っている動物　・育てている植物　・家族　・友だち　・旅行　・学校
・出来ごと　・見たこと　・読書　・ゆめ　など

② どんな様子をどんな言葉でかくか。

○ **自分がみつけた言葉**で書いてみましょう。

○ **相手**（人・動物・植物・物など）**の気持ちになって**書いてみましょう。

・見つけたようす　…【目で見たこと】
・聞こえた声・音　…【耳できいたこと】
・自分がやったこと…【体で感じたこと】
・ふれた感じ　…【手・足で感じたこと】
・ゆめ・気持ち・思い…【心・頭で感じたこと、考えたこと】

3 詩を作ろう。

① 書きたいことが決まったら、たくさん言葉を見つけよう。

○見つけた言葉をノートにいっぱいらくがきしよう。

② 書き出した言葉をつないで、詩に表わそう。

○どんな言葉をどのようにつないでいけば、
自分のいちばん表わしたい気持ちが伝わるかを工夫しながら、
言葉をつづっていこう。

③ 出来あがったら声に出して、気持ちをこめて、なんども読んでみよう。

○くり返し朗読しながら、

・自分の思いが 表 せているか。

・自分らしい言葉で 表 せているか確かめよう。

（気持ちがすなおに伝わるか、むだな言葉はないか）

・近くにいる人（家族など）にも聞いてもらおう。

4 お友だちの詩を読みましょう。

（過去の「ひこね子ども文芸作品」より）

① 声を出して読んでみよう。（作った人の気持ちになりきって読んでみよう。）

② すきなところ・良い表わし方だなあ、と思ったところに、線（――）を引いてみましょう。

なぜすきか、良いと思ったかを、短い言葉で書いてみましょう。

① 雨の音楽会

（小学二年生）

雨がふったよ
雨がふったよ
かさにあたって
ぴち
ちょぴ
とん
どうろにあたって
ぴちゃ
ちゃぷ
とん
やねにあたって
ぴちょ
ちゃぴ
とん
いろんな音があわさって
ぴち　ちゃぷ　とん
ぴち　ちゃぷ　とん
まるで　まるで
雨の音楽会

② せんたく

（小学二年生）

わたしはものほしざおです
おかあさんにたのまれて
朝から
うでを目いっぱいのばしています
これはパンツです
これはシャツです
これはパジャマです
お日さま
今日もよろしくね
光と風をすいこんで
おしごとします
がんばります

③　なまけおばけ

（小学四年生）

ぼくの　へやの　まんなかに
なまけおばけが　住んでいる
ぼくが　べんきょうしていると
なまけおばけの　たかい声
ちっとマンガをとってくれ
つづきマンガがみたいの
ぼくもそれにさそわれて
ぼくもマンガをとってしまう

ぼくがそうじきかけてると
なまけおばけのたかい声
なんどやっても同じだから
やめなはれ

なまけおばけがいるかぎり
なにをやってもぼくはだめ
なまけおばけよ　おねがいだ
はやくどっかへいってくれ

④　鏡に映った

（小学六年生）

洗面台の大きな鏡に映った私
左と右が逆になるように
悲しさもうれしさにならないかな

化粧用の鏡に映った私
今日の私は一段と輝いている
いつもそうだったら　いいのにね

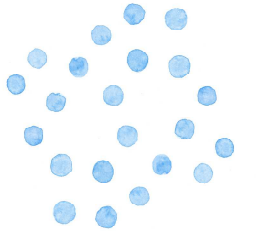
玄関の鏡に映った私
鏡に向かってごあいさつ
心がはずむと体もはずむ
心がしずむと体もしずむ

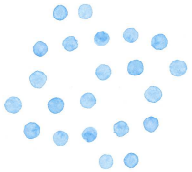
洗面台の大きな鏡に映った私
体の傷は映せても
心の傷は映せない

⑤　ゆき

（中学部二年生）

ぼくゆき
この世界にとつぜん出現させられる
この僕を出現させているやつ　あやまれ
なんていったって
ふりつもったら　固められて投げられる
あと　とける
あと　こおる
あと　じゃまものあつかいされる
だから　あやまれ





⑥　反抗期

（中学二年生）

どれだけ言ってもいい言葉「ありがとう」
早く言ったらいい言葉「ごめんなさい」
その言葉が口に出せない
わかっているのに…
「ありがとう」なんて素直に言えない
「大好き」なんてもちろん言えない
先が見えない不安から
気持ちがコントロールできない苦しみで
時にはとがってみたりして
本当にめんどくさいむずかしい奴
真っ向から腹を割って話せば
すっきりするだろうか
はやく終わらないかな　反抗期
心が絆創膏でいっぱい
その一言が心に染みる
反抗期　それがすんだら反省期かな
本当の自分に出会えることを目指して
何処かにたどりつくことを信じて
人を想う心はきっと人を成長させる

5 作品を作ってみよう。

（自分で考えて作ってみましょう。）